



出航して浦賀水道航路に近づくと、大型船が往来している(上)。さっそく「ニューベックスマート」でチェックすると、すぐに該当するフネがわかった(下)。船名(TONG LIN WAN)というタンカーで、180度の方向に12.8ktで進んでいることが読み取れる

12.9インチのタブレットを、ヘルムステーションに設置。出航前に、アプリ内の「計画作成」メニューでコースを設定し、危ない箇所がないかチェックする。タッチパネルで拡大・縮小が簡単にできて、使い勝手は抜群

私(=姉妹誌『ポート倶楽部』編集部モテギ)は、モバイル用アプリ「ニューベックスマート」を愛用している。お気に入りの点はいくつかあるが、全国の海岸線、海底地形図、漁具設置位置やマリーナ情報などがいつでも見られる上に、一緒にいる人に見せることで情報共有もできること。さらに、海に出た際に航跡も残しておけるというのが、私にとっての主な魅力だ。

そのニューベックスマートに、新たな機能が加わった。AIS(船舶自動識別装置)と、『Sガイド(プレジャーボート・小型船用港湾案内)』のデ

タの表示が可能になったのだ。ということで、さっそく海上で使い勝手を体験するしかない。通航量の多い東京湾、横須賀市浦賀のシティマリーナヴェラシスから横浜ベイサイドマリーナへと、クルージングしながらの体験となった。

ヴェラシスを出港すると、目の前の浦賀水道航路には、大型船が次から次へと北へ南へと航行している。さっそくニューベックスマートで確認すると、いろいろ。画面上の船舶は、大きさごとに色分けされているので、一見して非常に見やすく、画面上でどのマークが実際に見えているフネ

なのか一致させやすい。

AIS船舶のマークをタップすると、そのフネの情報が表示される。船名や全長、速度など、発信している情報の項目はフネごとに異なるが、細かいところでは、船型や目的地までわかる。

続いて、AIS情報を発信しているヨットとすれ違った。フネまでの距離があって、船体の艇名は目視できないが、AIS情報で見た全長と速度からヨットだと判断できる。ほかにも、横浜に着くまでにたくさんのAIS船舶を確認することができた。

最近では、法的に搭載が義務付けられている大

# AIS情報の表示が実現! 『Sガイド』データも追加! モバイル用アプリ「ニューベックスマート」を使ってみた

**30日間  
無料で使える!**

文=茂木春菜 写真=山岸重彦  
text by Haruna Motegi, photos by Shigehiko Yamagishi

広がる  
ニューベック  
ファミリー

(一財)日本水路協会が発行する航海用電子参考図「ニューベック」。各種船用機器のマップデータとして導入されるほか、スマホ&タブレット向けアプリも登場し、「ニューベックファミリー」として多くのユーザーに認知されている。今回は、次々と新機能の搭載が進む「ニューベックスマート」を、実際に海の上であれこれ使ってみることにした。



外国籍なのだろうか? AIS情報を発信しているヨットにも出合った。船名がすぐにわからなくとも、見え方と、全長やスピードから対象がわかる

型船でなくても、AISの機器の搭載を考えているボートオーナーも多く、編集部にお問い合わせをいただいたりもする。そうした方も、まずはスマホ(iOSに限る)さえあれば今すぐ使える、ニューベックスマートでお試しいただくのはどうだろう。タブレット(iPad)ならば、より画面が大きくて見やすいのでオススメだ。しかも、アプリの利用は初回登録から30日間は無料! まずはダウンロードして、とにかく実際に使ってみていただきたい。

さて、続いて『Sガイド』のほうだ。クルージングに明け暮れていた学生のころから、『Sガイド』が愛読書のひとつだった私は(当時は「港湾案内」と呼んでいました)、今でも新しい港に入る際は、必ず確認することになっている。その情報を、手元のスマホのニューベックスマートで見ることができるようになったのだ。しかも、掲載されている港の数は、なんと1,100を超えるという。

例えば、釣りで遠出した際などに、途中で給油が必要な場合のみならず、不慣れなゲストなどのために上陸をしたほうがよいようなときもある。当然、寄港地を前もって調べておくに越したことはないが、現場では、もっと近くに港がある場合もある。また、寄港先に連絡して入港許可を取ったところで、口頭での説明だけでは入港ルートがわかりにくいこともあるだろう。いずれの場合においても、『Sガイド』を参考とすれば、一助となってくれるに違いない。



画面ほぼ中央の赤い△マークが自艇で、矢印の向きが進行方向。ピンクの点線の航路内を走っている△(赤)が大型船で、それを曳いているタグボートが△(緑)の2艇だ。その前方の△(オレンジ)は、大型船の△(赤)よりやや小さく、色分けされて表示される



マリーナマークまたは海の駅マークをタッチすると、名称が表示される(左)。その横にある「S」マークをタッチすると、『Sガイド』の画面が表示された(右)

今回の体験では、ボートに装備していたGPSプロッターも起動してはいたが、慣れている海域というところもあって、ニューベックスマートをメインにした。ほかの航海機器同様、頼りきるのは間違っているが、事足りてしまうと感じたのも事実である。

新たな機能が入ったニューベックスマート、プレジャーボートユーザーには、ぜひとも一度は試してみたい。初回登録から30日間無料なので、継続して利用するかどうかは、使ってみて決めればよいのだから。

**NEWS ニューベックファミリー最新情報**

ニューベックファミリーに、プレジャーボートの総合ブランド「ヤマハ」と、同社が提供するアメリカの代表的な航海機器ブランド「ガーミン(GARMIN)」が、新しい仲間として加わりました。高機能のGPSプロッター、マルチファンクションディスプレイなど、ニューベックを多角的に使える環境がさらに広がることは、ユーザーにとっては見逃せません。

なお、日本水路協会から本多電子へ提供されていた、ニューベックおよびホンデックス地図向けの詳細等深線のライセンス契約は、2018年8月をもって終了しました。すでにご購入の製品については、引き続き使用できます。

航海用電子参考図「new pec」

